

# 社長 第395回 INTERVIEW

常に技術を革新し、ワンストップで  
あらゆるニーズに対応する

## (株)池田熱処理工業

### — 池田隆久社長に聞く



池田隆久社長

金属の耐久性・耐摩耗性の向上に欠かせない熱処理加工など手がける(株)池田熱処理工業(札幌市)は、創業以来蓄積された技術や道内屈指の設備力で多種多様な機械部品の品質確保に貢献している。機械加工の技術も有し、ワンストップ体制で短納期、高品質、低価格を実現。自らも熱処理加工の経験が豊富な当社の池田隆久社長に、これまでの歩みから今後の展望まで伺った。

(聞き手：札幌支店情報部 松田尚也)

#### — 創業の経緯から伺います

もともと私の祖父が札幌市中央区で鉄工所を営んでいました。父は学校に通いながら家の手伝いをしていたと聞いています。18歳で徴兵された父は終戦後、本格的に祖父の仕事を手伝うようになりました。

ある時、鉄工所で製造を請け負った部品の中に、熱処理をしなければならないものが出てきたそうです。終戦からまだ何年もたっていないころは、スコップや鍬をつくる鍛冶屋はいたものの、機械部品の熱処理する業者はほとんどありませんでした。では当時はどこで熱処理を行っていたか。それは現在の北海道立総合研究機構の工業試験場でした。

父曰く、鉄工所で手間暇かけて作った部品の売値と、熱処理の加工賃はほぼ同じだったそうです。そこで熱処理を自分でやれば儲かるのではと

考え、独立しての創業に至ったわけです。

ただ、父は熱処理に関する学術的な知識などはほとんどなかった。頼ったのは祖父の友人の息子でした。その人物は北海道大学の工学博士で、後にわが社の技術顧問にも就いていただいた長岡金吾先生です。長岡先生のサポートによって知識を蓄え、最終的には政府系金融機関から融資を受け、焼き入れをするための発振器を導入し、各種機械部品の熱処理加工事業を開始しました。

#### — 現在はどのような機械部品の熱処理を行っていますか

創業当初は農業関係や炭鉱関係の部品加工を行っていました。農業関係はそれこそスコップや鍬などの農具の加工からスタートし、時代が進むにつれ収穫機や脱穀機といった農業機械の部品加工がメインとなっていきました。

炭鉱が閉山となり、わが社の炭鉱事業も終了し、その後は一部の産業機械の部品加工も手掛けるようになりました。そして次に主力となったのが自動車関連部品の熱処理です。苫小牧市や千歳市に次々と自動車産業関連の本州大手企業が進出し、部品の現地調達が発達する流れの中、わが社もクラッチ板などの試作品製造や量産するための熱処理に携わり始めました。

ところで、熱処理は一つの部品を製造する最終工程です。その前段には工作機械を用いた切削や

研磨といった精密加工がおこなわれます。そこでわが社は設計から機械加工、そして熱処理までワンストップで行える体制を構築しました。今では金属の機械加工は熱処理とともにわが社の主力事業となっています。

また、油圧シリンダーの製造も約15年前から手掛けています。設計、加工、熱処理、組み立て、検査、塗装といった製造工程を全て自社で一貫生産しており、量産品の製造や試作品の開発、特殊形状の製作など、あらゆるオーダーに対応しています。特に過酷な環境でも耐えられる強靱さと優れた制御性がお客さまから評価されています。

わが社の油圧シリンダーは建設機械や農業機械のほか、CTやMRIの寝台といった医療器具などにも使われており、お客様の幅が広がっています。

様々な種類の刃物製造にも力を入れており、社内一貫製造で機械部品や油圧シリンダー同様、短納期、高品質、低価格で製品をお客様に提供しています。

#### — ご自身の入社経緯は

高校生になってからは夏休みや冬休みに父から言われて会社の手伝いをしていました。当時からは仕事は楽しかったですね。もっと熱処理に精通したいなと思っていました。その後、最初に勤めたのが神奈川県川崎市にある会社です。熱処理の現場作業員として8年半働きました。それから一度札幌に帰り、住設関係の会社での営業職を経て愛知県の大手熱処理関連企業に就職しました。3年ほど勤務したのち、わが社に入社しました。

#### — 入社されてからはどのような取り組みを推進されてきましたか

川崎や愛知での修業期間中は原発関係や航空宇宙関係の熱処理など、ありとあらゆる作業を経験してきました。そこで得たノウハウを生かし、品質管理の改善や商標関係の取りまとめ、再現性のある仕事を行うための作業標準書の更新などに取

り組み、求められればお客様へのレクチャーも実施しました。ものづくりの会社ですから、製品のクオリティを守ることは最重要課題です。そこを改めて徹底できるように現場を改善しました。

2015年に社長に就任してからは、さらに改革を進め、設備を大幅に更新し、ISO9001認証を取得するなど、現場の衛生管理や安全管理、営業スタイルなどありとあらゆるものを見直しました。振り返れば社長就任から現在に至るまでの約7年間はあっという間でした。

#### — 今後の展望を聞かせてください

今年の3月には航空機エンジン部品への参入を目指し、道内のものづくり企業とともに結成した「Sapporo Air Craft Suppliers Club」の発足式を行いました。これから参入障壁が非常に高いと言われる航空産業へのチャレンジを本格的に始動します。

また、工業系の会社として環境に配慮した事業展開を進めていきたいと考えています。いまわが社がある場所には50年前に移ってきました。そのころ周辺は畑でした。それが現在は商業施設や住宅も近いところまで建設されています。熱処理加工を行う工場がありますから、大気汚染などが起きないように細心の注意を払わなければなりません。熱源を置き換えるなど、コストはかかりますが地域に最大限配慮した上で営業を続け、環境保全にも貢献していきたいと思っています。

#### — 本日はありがとうございました

#### 会社概要

(株)池田熱処理工業

企業コード：010007408

本社：札幌市東区東雁来3条1-1-27

電話：011-781-5555

<http://www.ikenetu.com/>